

キッズサイエンススクール 2014

① 夏の味覚を探求しようサマースクール

「親子の食育体験講座 食を学ぶキッチンサイエンス ～味覚と食感の実験マジック～」

実施担当研究員：高品 知典（生命科学部応用生物科学科 准教授）

岡崎 渉（生命科学部応用生物科学科 教授）

開催日時：平成 26 年 8 月 9 日（土曜日）10:00～11:30

場 所：板倉キャンパス 3 号館 1 階調理実習室

対 象：近隣市町の小学生（3～4 年生）とその家族

参加者：46 名

地活研実施担当研究員：2 名、TA 学生：6 名、

参加費：無料

協 力：近隣自治体教育委員会

事業の目的

本講座は、小学校生徒への食育支援活動の一環として、身近な地場野菜に加熱、凍結などの調理をした時の色、形、固さ、香り、味などの変化を観察・体感し、野菜への興味を高めてもらうことを目的とした。また、親子で力を合わせて野菜を調理することによって、親子のコミュニケーションの機会を提供することも併せて目的とした。

事業実施内容

食育支援活動の一環として、身近な地場の野菜を取り上げ、その特性や調理法による食味・食感の違いなどを体験講座（理科・技術家庭科、生活科などに関連した内容）として実施した。具体的には、玉ねぎ、大根などの野菜を加熱調理することによる外観・食味・食感の変化を観察記録し、その理由を考える取り組みを行った。器具は主として一般家庭の台所で使っているものを用い、帰宅後に再度実験できるように工夫した。終了後の解説では、変化の理由だけでなく、野菜と伝統食品、発酵食品との関わりについてもふれた。代表者の高品は、板倉町食育推進事業推進委員（学識経験者）および板倉町食育推進事業指導法検討委員（学識経験者）を 2 年間務めた経験があり、食育の重要性も合わせて伝えた。今回は近隣市町の教育委員会の協力を仰ぎ、小学校と連携して子供と家族が参加できる「親子の食育体験講座」として実施した。

事業の成果

参加者へのアンケートでは、「実験の内容」についての設問では 85%以上の生徒が「とても面白かった」「面白かった」と答え、「説明」についての設問では 90%以上の生徒が「とてもわかりやすかった」「わかりやすかった」と回答していた。このことから、実験内容を理解し、身近にある食材の変化を楽しんで体験していただけたと考えている。また、アンケートの自由記入欄には、「意外だった」「家ではやらないことができて楽しかった」「他の野菜でも試してみたい」等の感

想が寄せられていたことから、さらなる興味や好奇心が引き出されたと思われた。同伴者からは「お盆前の土曜日の午前中で参加しやすい」「自由研究に生かせる」等の感想をいただいた。

今回は小学校を通して、小学生と家族が参加できる「家族同伴の科学実験講座」として開催した。親子や兄弟姉妹で手順を確かめあったり、協力して野菜を切ったりする姿が随所に見られ、家族で力を合わせて実験するというコミュニケーションの機会を提供することも十分に達成できたと考えられる。前回に引き続き父親と思われる男性の参加が多く、開催日が8月の土曜日であったことが良かったと思われた。

改善点および今後の展開

開催時期については、昨年度開催した際に同伴者から夏休み前半を希望するという意見があった。学校から出ている夏休みの課題に役立てたいということであろう。そこで今回は開催日を8月第2週の土曜日とした。大学は定期試験期間中であり、万が一参加者が怪我をしても医務室が開室しているため対応できるという観点から設定した。40名以上が参加したことを考えると、適切な日程であったと考えられる。今後も小学生対象の実験講座を開催する場合には考慮すべきであろうと考えている。

謝辞

本講座は近隣市町の教育委員会の協力を仰ぎ実施された。関係各位にこの場を借りてお礼を申し上げます。今後、また機会があればこのような講座を企画したいと考えている。地域の皆さんへの教育貢献の一助となれば幸甚である。



(実験講座当日の様子)



(実験講座当日の様子)

キッズサイエンススクール 2014

② 夏休みの宿題これではばっちりサマースクール

「台所でできる科学実験講座 遺伝子って何？DNAを見てみよう」

実施担当研究員：高品 知典（生命科学部応用生物科学科 准教授）

岡崎 渉（生命科学部応用生物科学科 教授）

開催日時：平成 26 年 8 月 9 日（土曜日）14:00～15:30

場 所：板倉キャンパス 3 号館 2 階学生実験室

対 象：近隣市町の中学生（1～3 年生）とその家族

協 力：近隣市町教育委員会等

参加者：4 名

地活研実施担当研究員：1 名、TA 学生：1 名、

参加費：無料

協 力：近隣自治体教育委員会

事業の目的

理科離れの傾向が著しい中学生を対象に、理科実験を通じて理科学習の楽しさを体験してもらい、知的好奇心を引き出すことを目的とした。難しいと考えられがちな理科の実験を“自ら手作業で”行うことで楽しさを感じてもらうことにより、興味を持たせるきっかけとなることが期待された。また、親子で力を合わせて実験を進めるというコミュニケーションの機会を提供し、昨今指摘されている親子の会話・ふれあいの不足を解消する一助となることも併せて目的とした。

事業実施内容

「遺伝」、「遺伝子」などの言葉は普段から見聞きしているが、実際に遺伝子によって親の性質がどのように子に伝わっていくかということのを正しく理解することは難しい。

この実験講座では、こうした内容をわかりやすく説明した後に、ブロッコリー・玉ねぎ・バナナなど身近にある果物や野菜から実際に DNA を抽出する実験を体験した。器具は主として一般家庭の台所で使っているものを用い、帰宅後に再度実験できるように工夫した。また中学生にもわかりやすい実験テキストを作成し、映像資料とともに解説することにより、容易に理解できるように努めた。本講座は近隣市町の教育委員会の協力を仰ぎ、中学校と連携して子供と家族が参加できる「親子の食育体験講座」として開催した。

事業の成果

参加者へのアンケートでは全員が「(とても)面白かった」「(とても)わかりやすかった」と回答したことから、実験についての理解度、関心度が共に高かったと考えられた。また、アンケートの自由記入欄には、「貴重な体験ができた」「家でもやってみたい」等の感想が寄せられていたことから、満足感をもっていただけたと思われた。同伴者からは「部活が休みになるので良い時期」「一週間前の方が良い」等の感想をいただいた。

改善点および今後の展開

今回は参加者が4名という大変少人数での開催となった。上述の小学生対象講座のアンケート結果では適切な日程である旨の回答が多かったことを考えると、他に原因がある可能性が高い。次年度、事業申請が承認された場合にはさらに工夫して、参加者の増加を望んで実施したい。

謝辞

本講座は近隣市町の教育委員会のご協力のもとで行われた。教育委員会ならびに中学校関係者の皆様にこの場を借りてお礼を申し上げたい。今後、また機会があればこのような講座を企画したいと考えている。地域の皆さんへの食育支援の一助となれば幸甚である。



(実験講座当日の様子)



(実験講座当日の様子)

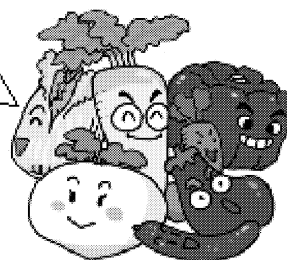
東洋大学地域活性化研究所主催 <親子の食育体験講座>

食を学ぶキッチンサイエンス

～味覚と食感の実験マジック～

ふしぎな野菜マジックを解き明かそう！

みなさんは、野菜が好きですか？
 「体にいいから食べなさい！」って言われるけれど、ちょっとにがい野菜やすっぱい野菜、匂いのある野菜もあるよね。
 でも、野菜の味は、温めるだけで柔らかくなったり、甘くなったり、また、匂いに変化するものもあるんですよ。
 そのなぞを大学の先生といっしょに実験して解き明かそう！



主催：東洋大学 地域活性化研究所

開催日時：平成26年8月9日(土) 10:00~11:30

場所：東洋大学板倉キャンパス 3号館1階調理実習室(予定)

対象：小学生3~4年生1名+大人の付き添い1名(2人1組)

定員：40組(80名)

※申込多数の場合は抽選になります。結果は大学から連絡します。

担当教員：高品 知典(生命科学部応用生物科学科 准教授)、岡崎 渉(生命科学部応用生物科学科 教授)

実験に参加したい人は、お家の人に申込書を書いてもらって、郵送またはFAXで送って下さい！

参加費無料！

申込〆切：

7月25日(金)まで

<申込・お問い合わせ先>

〒374-0193 群馬県邑楽郡板倉町泉野1-1-1
 TEL 0276-82-9112 FAX 0276-82-9801
 東洋大学板倉事務部事務課

申込書

氏名	ふりがな 氏名	男・女 才	学校 学年	小学校 年生
付添人	ふりがな 氏名	才	続柄	電話番号 — —
住所	〒			FAX 番号 — —

※ ご記入頂いた個人情報は、本講座の準備・運営(傷害保険加入手続き等)にのみ利用致します。

(募集パンフレット)